

平成31年度（2019年度） 県立日立第一高等学校附属中学校 自己評価表

【別紙様式2】

<p>目指す学校像</p>	<p>本校は、高い志を持ち、優れた資質と豊かな人間性を備え、社会の発展に貢献する人材を育成する学校である。そのために、様々な学習機会を提供し、各教職員がその専門性を活かし、組織的できめ細かな指導を行うとともに6年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、次のような生徒を育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自ら課題を発見し、主体的に「やり抜く」ことのできる生徒 2 物事を理性的に判断し、筋道を立てて議論できる生徒 3 高いモラルと豊かな感性を持ち、リーダーシップを発揮できる生徒 4 運動の楽しさや喜びを知り、自ら健康を管理できる生徒 		
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>重点項目</p>	<p>重点目標</p>	<p>達成状況</p>
<p>【学習指導・進路指導】 【成果】 ・県学力診断のためのテストの県平均正答率（5教科合計）との比較で、3年生+118.3、2年生+122.1、1年生+111.9と各学年ともに大きく上回り、基礎・基本の定着に加え活用力も身に付けている。 【課題】 ・「主体的、対話的で深い学び」に向けた授業改善。（附属中メソッド） ・発展的な学習や補足的な学習に対応する課外学習の工夫改善。 【生徒指導】 【成果】 ・基本的な生活習慣は定着傾向にあり、落ち着いた生活をしている。 ・生徒の自主性を尊重した指導を実施し、生徒もそれに応えている。 【課題】 ・特別な支援が必要な生徒に対する理解の推進と、指導体制の整備。 ・問題行動の未然防止及び早期発見、早期対応。 【特別活動】 【成果】 ・部活動に熱心に取り組んでいる。生徒会活動も活発であり、生徒主体で学校行事や宿泊学習などが実施されている。 【課題】 ・部活動と学習の両立 ・部活動の教、運営方法の検討 【国際教育】 【成果】 ・イングリッシュタイムやグローバルコミュニケーション、海外語学研修等の実施により、英語に対する興味・関心が一層増し、英語の運用能力が伸びており、英検準2級以上の合格者は、96.2%であった。 【課題】 ・海外語学研修及び学習成果発表会等の充実。 ・高校進学後の海外研修や留学等への啓発。</p>	<p>1 情報発信力の強化</p>	<p>・企画広報部の新設 ・ホームページの充実（生徒の活用の検討、学校行事、部活動、進学情報等のホームページへの迅速なアップ） (企画広報部)</p>	<p>B</p>
<p>・特別な支援が必要な生徒に対する理解の推進と、指導体制の整備。 ・問題行動の未然防止及び早期発見、早期対応。 【特別活動】 【成果】 ・部活動に熱心に取り組んでいる。生徒会活動も活発であり、生徒主体で学校行事や宿泊学習などが実施されている。 【課題】 ・部活動と学習の両立 ・部活動の教、運営方法の検討 【国際教育】 【成果】 ・イングリッシュタイムやグローバルコミュニケーション、海外語学研修等の実施により、英語に対する興味・関心が一層増し、英語の運用能力が伸びており、英検準2級以上の合格者は、96.2%であった。 【課題】 ・海外語学研修及び学習成果発表会等の充実。 ・高校進学後の海外研修や留学等への啓発。</p>	<p>2 本校の強みをさらに伸ばす (将来構想計画及び新教育課程の策定などに反映)</p>	<p>・サイエンスリテラシーの充実（SSH・教務部） ・多くの生徒が関われるオンラインによる英会話の実施（英語科・教務部） ・部活動の重点化（特別活動部） ・先取学習や学習の深化など附属中学校の教育内容について教科会の定期的な開催（各教科） ・特別な支援を必要とする生徒や成績不振な生徒に関する組織的な支援（各学年） ・ICT等、優れた教育環境を生かした授業の推進（各学年） ・医学部進学等を意識した中高連携（進路指導部）</p>	<p>B</p>
<p>・特別な支援が必要な生徒に対する理解の推進と、指導体制の整備。 ・問題行動の未然防止及び早期発見、早期対応。 【特別活動】 【成果】 ・部活動に熱心に取り組んでいる。生徒会活動も活発であり、生徒主体で学校行事や宿泊学習などが実施されている。 【課題】 ・部活動と学習の両立 ・部活動の教、運営方法の検討 【国際教育】 【成果】 ・イングリッシュタイムやグローバルコミュニケーション、海外語学研修等の実施により、英語に対する興味・関心が一層増し、英語の運用能力が伸びており、英検準2級以上の合格者は、96.2%であった。 【課題】 ・海外語学研修及び学習成果発表会等の充実。 ・高校進学後の海外研修や留学等への啓発。</p>	<p>3 校内諸規定の見直し</p>	<p>・附属中校内諸規定の検討（各校務分掌） ・学力検査の内規の見直し</p>	<p>B</p>

<p>【科学教育】 〔成果〕 ・サイエンスリテラシーにより、研究のテーマ設定やデータの収集・分析等を学習し、基本的な研究の仕方を身に付けている。 〔課題〕 ・中高一貫校を意識した指導内容等の改善。 ・科学的ディスカッションができるリーダーの育成。</p>	4	その他	・中高一貫教育の成果検証	B
--	---	-----	--------------	---

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度への課題				
国語	1 基礎・基本の確実な習得と活用力を育成する指導	1) 思考の可視化を通して、論理的思考力を高めるとともに、学び合いの場を設定する。	2	B	A	A	・読書活動や調べ学習における図書館を活用した単元構成の工夫と実践。 ・基礎力養成課外の内容や時期、また、個に応じた課題提示、指導内容について検討し、継続的に支援できるようにしていく。			
		2) 目的や意図に応じて適切に書く場を設定し、表現力や思考力の深化を図る。	2	A				A		
		3) 相手の意見と関連づけながら、自分の意見を述べる方法を身に付けさせ、深まりのある話し合い活動を展開する。	2	A				A		
	2 読書活動と関連付けた指導の充実	1) 図書館の有効利用を位置付けた単元構成を工夫する。	2	B				B	A	
		2) 読書単元の指導過程や方法を工夫する。	1,2	B				A		A
		3) 図書に触れる機会や活用場の充実を図るとともに、環境を整える。	2	B				A		A
	3 個に応じた指導	1) 単元テスト・定期考査・模試等を分析し、学習状況を的確に把握する。	2	A				A	A	
		2) 学習状況に応じて、補充指導や発展学習を行う。	2	B				A		A
		3) 面談や課外の実施等、個別指導ができる時間の確保に努める。	2	B				B		B
社会	1 中高6年間を見通した指導計画の改善と活用	1) 小学校社会科及び生徒の実態を踏まえた指導計画の改善と、中高一貫教育に対応したカリキュラムの検討を進める。	2	B	B	A	・授業におけるICTの活用。 ・高校進学時の、高校の教員との生徒の情報共有。 ・高校進学時に附属中生として身に付けておきたい知識や能力の確認。高校側との連携。			
		2) 中高一貫教育に対応した教材・教具の整備を行う。	2,4	B				B		
	2 学習意欲を喚起し、基礎・基本の確実な定着を促す指導	1) ICT機器等を積極的に活用し、生徒の学習意欲を喚起する学習課題の工夫を図る。	2	B				A	A	
		2) テキスト、単元テスト等を活用し、習得すべき知識・概念を明確にして、確実な習得を図る。	2	B				A	A	
		3) 生徒が予想を立て、見直しをもって行う問題解決的な学習の場を設定する。	2	B				B	A	
	3 社会的な思考力、判断力、表現力の育成を図るための指導	1) 複数の資料から必要な情報を集めて読み取り、要点を簡潔に文章で表す言語活動を取り入れた学習を行う。	2	A				A	A	
2) ディベートなどにより、社会的事象の意味や意義を解釈し、表現する場を設定し、学び合いのできる学習を行う。		2	B	A	A					
数学	1 学習意欲を高める指導	1) 課題や課題提示を工夫する。	2	A	B	A	・基礎基本の定着 ・個人差への対応 ・数学的な考え方をもち、他者への伝達を意識した授業展開			
		2) 数学的活動の充実を図る。	2	A				A		
	2 基礎・基本の定着を図るとともに応用力の育成を図る指導	1) 生徒が気づける、解けると思えるように、授業展開や説明を工夫する。	2	A				A	A	
		2) 生徒同士の話し合い・学び合いの場を充実させることで、基礎・基本の定着を図る。	1,2	B				A		A
		3) 生徒の学力に応じて学習内容を精選し、深化・発展的な内容の学習も行う。	2	B				A		A
	3 個に応じた指導	1) 単元テスト、週末課題、課外等を実施することで、個々の学力向上に努める。	2	A				A	A	
		2) 生徒の実態を把握し、個に応じた支援が行えるようにする。	2,3	B				A		A
		3) 生徒が質問しやすいような体制作り（放課後等の活用）をする。	2,3	B				B		B

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度への課題	
理 科	1 「科学する心」の育成	1) 各分野の事象・現象に対する興味・関心を高める学習の場を設定し、知的好奇心や探究心を育む。	2	A	A	A	・観察や実験の結果を表やグラフにまとめられるようにするための指導をしてきたが、定着していない生徒もいるので、継続して指導をしていく。 ・話し合いや発表では、自信をもって発言できるようにするため、根拠を明確にする指導を充実させることができた。また、小グループでの話し合いの経験を増やすことで、自信をもって発言できるようになった。今後も継続して話し合いの場を確保していく。
	2 科学的思考力や表現力の育成	1) 課題解決学習により、生徒が主体的に探究的な活動を行えるようにする。	2	A			
		2) 観察や実験の結果について、表やグラフ等を用いて考察できるようにする。	2	B			
		3) 話し合いや発表の場を設定して、表現力の向上を図る。	2	B			
3 高校の学習内容との系統性を重視した学習指導	1) 基礎・基本の定着とともに、発展的な学習を通して、高校の学習内容との系統性を重視した授業を展開する。	2.4	A	A			
保健体育	1 運動の楽しさや喜びを味わうことができるように、知識や技能を身につける。	1) 各種目に応じた運動の学び方を理解させる。	2	A	A	A	・各単元、二人で授業を行うことで、技能レベルに合った指導などを行うことができた。 ・年間計画を元に授業を進めることができたが、時間が足らなくなるものが多かった。進度が遅い訳ではなく、根本的に授業が足りないという印象である。国体などの影響もあったかとは思いますが、学校行事など見直していく必要があるように思う。
		2) 基礎・基本の定着を図るためにドリルゲームやタスクゲームを取り入れる。	2	B			
		3) グループ学習を取り入れ、公正に取り組んだり、協力する態度を育成する。	2	B			
		4) 規律ある行動やあいさつ、マナー、ルールの厳守	2	A			
	2 生涯を通して、自らの健康を管理できる能力を育成する。	1) 心身の機能の発達と心の健康について理解させる。	2	A			
		2) 健康と環境、傷害の防止について理解させる。	2	A			
芸 術	1 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身につけ、創意工夫して表現する能力を育てる。	1) 基礎的・基本的な奏法の確認時間を十分に確保する。	2	B	B	A	(音楽)短い授業回数の中で、多様な活動を行えるよう年間計画や展開案の見直しを行いたい。 (美術)美術作品等の鑑賞の時間をより充実させ、生徒に鑑賞の見方・考え方を定着させていきたい。対話型鑑賞を取り入れるなど、生徒の興味関心を引く鑑賞活動の充実を図りたい。また、作品制作において、技術的な指導に留まることなく、生徒の発想や構想の力、美術的なものの見方・考え方を指導していきたい。
		2) 歌唱・器楽・創作をバランスよく取り扱う。	2	B			
		3) グループ活動を充実することで他者の多様な音楽表現に気付かせる。	2	A			
	2 多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。	1) 我が国の伝統的な音楽文化を含めた、多様な鑑賞教材を用意する。	2	B			
		2) 鑑賞した楽曲に対して批評活動を行うことで、主体的な鑑賞態度を養うとともに他者の多様な感じ方に気付かせる。	2	B			
		1) 発想力を鍛え、基本的な技術や表現力を身につけさせることで創造の楽しさに目覚めさせる。	2	B			
美術を愛好する心情を培い豊かな情操を養う。	2) 鑑賞の時間を充実させる。	2	B				
	1) 発想力を鍛え、基本的な技術や表現力を身につけさせることで創造の楽しさに目覚めさせる。	2	B				
英 語	1 総合的なコミュニケーション能力を育成する。	1) 言語の使用場面を考え、4技能のバランスのとれた言語活動を実施する。	2	B	B	A	・帯活動でスモールトークを行う。 ・イングリッシュタイムをさらに充実させる。 ・複数の技能を統合的に指導する。 ・積極的にコミュニケーションが取れる生徒を育成していきたい。
		2) 実物や視聴覚教材を取り入れた授業を展開する。	2	B			
		3) 授業導入時や展開時における日常会話や音声表現活動（自己表現活動）を実施する。	2	A			
	2 ワークシート等の工夫を通して、言語活動における基礎基本の定着を図る。	1) ワークシート等の定期的な提出や評価と共に、効果的に生徒へフィードバックする。	2	B			
		2) 辞書の活用を奨励し、語彙を増やすことを目的とした諸活動を実施する。	2	B			
		3) 自己の学習状況を振り返り、積極的に授業に参加する態度を養う。	2	A			
	3 言語活動を通して異文化交流、異文化理解をしていく態度を育てる。	1) 教科書だけでなく、様々な補助資料を用いて異文化理解を進める。	2	B			
		2) ALTとのコミュニケーション活動を通して、様々な考えに触れる機会を設ける。	2	B			
		3) 学校行事の中での英語活動や総合的な学習と連携した活動を実施する。	2	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度への課題					
技術・家庭科	1 生徒の学習意欲を高める学習指導	1) 生徒の興味・関心に答える学習内容を工夫する。	2	B	B	A	・実習を取り入れ、実践的、体験的な授業を行うことで、学んだ知識や技能を生活や社会で生かすことができるように指導を行った。 ・授業の振り返りなどを行うことでより深い理解ができるよう進め方を検討する。 ・実習作品やプリントまとめなど授業時間内に終わらない生徒が増えてきている。終わらない生徒の対応を検討したい。(家庭科)				
		2) 実験や実習を効果的に行い、理解の定着を図る。	2	B							
		3) グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する。	2	B							
	2 科学的な理解と技術の習得	1) さまざまな事象を科学的にとらえる授業を展開する。	2	B							
		2) 実験・実習を行い、基本的な技術を身につける。	2	A							
		3) 学習ノートを活用し、学習したことの定着を図る。	2	B							
	3 生活に生かす力の育成	1) 長期休業などに、学んだことを実生活で実践するための課題を出す。	2	B							
		2) 生活の場面で生徒が取り組めることを意識した授業を展開する。	2	A							
	教務部	1 教育課程の適切な運用と授業時間の確保に努め、生徒一人一人が確かな学力を身につけ、自己実現を果たせるようにする。	1) 授業時間の確保に努める。特に、授業変更を積極的に行い、自習・填補の減少に努める。	2				A	B	A	・中高一貫校である本校の教育活動の質を高めること。(特に授業のあり方)
2) 生徒の学力の現状を把握し、教育課程の適切な運用を図る。			2	B							
3) T Tや少人数指導を組み入れながら、確かな学力を身につけさせるように努める。			2.3	B							
2 学校行事を適正に配置し、生徒一人一人が充実した学校生活を過ごせるようにする。		1) 高校との連携をはかりながら学校行事の適正配置・運営に努める。調査時期を見直すとともに、授業時数のバランスを確保する。	1.2	A							
		3 各部・学年・教科との連携を緊密にし、校務を円滑に推進できるような努める。	1) 定期考査・実力考査等の適正処理に努め、公正な評価を行う。	2	A						
2) 出席状況を正確に把握して、各学年や生徒指導部との連携を図る。			2.3	A							
4 中高一貫校としての創造的な授業をめざし、授業方法の改善や研究に努める。		1) 教科・科目の目標を設定し、学習シラバスに基づいた検証を行う。	2	A							
		2) 「3年間の学習計画」を充実させる。	1.2	B							
		3) 公開授業の拡充とICTの積極的な活用に努め、職員のスキルアップに資する。	2	B							
進路指導部		1 適切な進路情報を提供し、進路意識の高揚を図る。	1) 進路資料の作成。	1.2	B	B	B	・進路情報を進路通信等を通じて積極的に発信すること。 ・進学校の附属中学として、6年間を見据えた進路指導を行うこと。そのための課外や模試の活用法などを今一度吟味していきたい。 ・大学進学への意識づけを行うために、セミナー開催や研修などを、対生徒、対保護者、対教員に定期的に開催できるようにしていきたい。			
			2) 進路ガイダンス・HRセミナー・進路講演会等を通して、進路意識の高揚を図る。	1	B						
			3) 保護者面談等で、定期的な進路情報を提供する。	2.3	B						
	2 3年間（6年間）を見通した系統的な進路指導に努める。	1) 学習・生活実態調査を定期的に行い、各学年と密接な連携を図り、生徒の状況を把握するとともに、情報を提供する。	2.3	B							
		2) 自然観察や出前授業を通して、サイエンスリテラシーの向上を図り、科学する心を育む。	2	B							
		3) 高校との連携を図りながら、共通する進路行事を計画する。	1,2,4	B							
	3 各学年及び各教科と密接な連携を図り、生徒の自己実現を支援する。	1) 外部模試の情報収集と結果の分析と活用。	2.3	B							
		2) 職業体験等での学年との協体制の確立。	1	A							
		3) 進路希望状況を適宜把握し、円滑に学年指導が進むように情報を提供する。	2.3	B							
保健厚生部	1 生徒の健康・安全・健康教育の推進に努める。	1) 生徒の日々の健康状態を把握し、適切な健康管理に努める。	3	B	B	A	・心のケアが必要な生徒への対応では、保護者、担任、教育相談部及び中高間での情報共有を行い、連携を図ることができた。 ・危機管理マニュアルの見直しを行い、危険発生時の役割分担や避難経路の確認を行う。				
		2) 健康診断、健康教育は学校医及び学校歯科医と相談し、円滑に行う。	3	B							
		3) 日常的な保健室利用の生徒について、担任、保護者との緊密な連携を図る。	3	A							
		4) 心のケアが必要な生徒について、担任、教育相談部と連携を図る。	3	A							
		5) 学校保健委員会と連携し、学校保健活動の推進を図る。	3	B							
	2 安全で清潔な学習環境の整備と美化に努める。	1) 清掃指導の徹底を図り、学習環境の衛生管理と美化に努める。	3	B							
		2) 防災機器の点検と管理、並びに生徒達の危機管理意識の高揚に努める。									

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価		後期評価		年間評価		次年度への課題
			点	評価	点	評価	点	評価	
3	正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身につけ、楽しく食事ができるようにする。	1) 全職員の共通理解のもと、適切な指示をしながら給食指導を行う。生徒の日々の健康状態を把握し、適切な健康管理に努める。	3	B	B	B	B		
		2) 給食係や給食委員会による常時活動の活性化を図り、給食の円滑な配膳や片付けを行えるようにする。	3	A	A	A			
		3) 職員も一緒に給食を食べながら、適宜、食事のマナーの指導や望ましい人間関係の育成を図る。	3	B	A	A			
生徒指導部	1 学校生活のきまりの確立と規範意識の高揚に努める。	1) 生活のきまりの作成及び共通理解を図る。	3	B	B	B	A	・スマートフォン、インターネット、SNS関連のトラブルの未然防止。 ・情報モラルについての講話、非行防止教室の実施。 ・登下校中の公共の場所でのマナー遵守。	
		2) 学級活動や学年集会等を利用し、きまりの確認や大切さについて理解を図る。	3	B	B	B			
	2 マナーの向上に努める。	1) 「さわやかマナーアップ運動」を推進するとともに、生徒会と連携し、マナーアップの呼びかけを行う。	3	B	A	A			
		2) 学級活動や道徳などの授業を通し、モラルの向上やマナーアップに関する活動を行う。	3	B	B	B			
	3 安全教育の推進と事故防止に努める。	1) 登下校時の立哨指導・巡回指導の実施	3	A	A	A			
		2) 交通安全教育の徹底	3	B	A	A			
3) 薬物乱用防止等の安全教室を行い、生徒の危機対応能力を高める。		3	A	A	A				
渉外部	1 保護者との相互理解を進め、より円滑なPTA活動を行う。	1) 新入生父母と教師の会の運営の充実やPTA総会など保護者参加行事への参加促進を目指した積極的な企画を行う。	4	B	B	B	A	・保護者への働きかけについては、各行事を通して積極的に行った。また広報誌の作成も適宜行うことができた。来年度も継続していきたい。	
		2) ホームルームセミナーの企画や運営の支援充実を図る。	1	B	A	A			
		3) 広報紙への掲載内容を検討し、保護者の意識高揚を図る広報誌の発行支援を行う。	1	B	A	A			
2 各専門委員会活動の調整を行い、生徒の健全育成を支援する。	1) 総務委員会・全体委員会での審議の活発化と共通理解の推進を図り、決定事項を各専門委員会の活動に反映させるための委員会間の調整を密に行う。	4	B	B	B				
特活部	1 部活動の活発化	1) 中学生、高校生両者が、共存できる部活動の方法を模索する。	3	B	B	B	A	・部活動の見直し ・中高合同行事の見直し ・生徒会活動の活性化	
		2) 部活動における効率的な活動を推進し、個の育成と集団のレベルアップを図る。	3	B	B	B			
		3) 部顧問の連携を図り、学校全体としての指導体制をより充実させる。	3	B	A	A			
	2 主体性のある生徒会活動の推進	1) 生徒会役員が、主体性を持って生徒会活動を進められるようにする。	1	B	A	A			
		2) 中学生、高校生両者が、協力して運営できる生徒会活動のあり方を模索する。	1	B	B	B			
	3 学校行事の活性化	1) 中学生、高校生合同実施の学校行事において、中学生の身体面や精神面に配慮した運営を行う。	1	A	A	A			
2) クラスマッチや体育祭を成功に導く。		1	A	A	A				
図書部	図書利用の活性化と読書活動の充実。	1) 活発で創造的な図書委員会活動ができるように支援する。	1.2	B	A	A	A	・自主的な読書活動につながるよう、各教科の学習や学級活動での図書利用の推進に努める。	
		2) 部・教科等と指導の連携を図り、豊かな読書活動を目指す。	1.2	B	B	B			
		3) 図書館内の環境整備とOA化を推進する。	1.2	A	A	A			
教育相談部	生徒の健全な人間形成と自己実現の促進に努める。	1) 個別面談やQUTテストを実施し、迅速な生徒の状況把握をする。	3	B	A	A	A	1学年の個人面談は、生徒理解において役に立ったため継続して行っていきたい。また、生徒がけではなく保護者もSCとつながることができたので今後も連携していきたい。	
		2) SCや担任・学年等と連携しながら、生徒及び保護者へ適切な支援を行う。	3	B	A	A			
情報部	1 校内ネットワーク快適利用の促進	1) 校内ネットワークを快適に利用してもらえるように、様々な意見を集約し、研究を行う。	2.4	B	A	A	A	・学校行事等の情報発信を積極的に行う。	
	2 情報発信の充実	1) ホームページ、携帯用掲示板を用いた情報発信を積極的に行う。	1	A	A	A			
	3 学校管理支援システム利用の促進	1) 学校管理支援システムにおいて、高校や他の校務分掌との連携をとり、より効率的かつ広範な利用を促進する。	3	B	B	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度への課題					
サイエンス部	1 「科学する心」の育成	1) 「科学研修会」等の行事の参加や地域の人材の活用を通して、科学に対する興味・関心を高める。	2	B	A	A	・白聖ネイチャースクールなど、中高の連携を意識して、今後も生徒の興味関心をさらに高めていきたい。 ・SSH科学研究発表会などを通して、知的好奇心や探究心をさらに高めていきたい。				
		2) 校内外の研究発表会等を通して、知的好奇心や探究心を高める。	2	A							
	2 科学的ディスカッションができるリーダーの育成	1) 総合的な学習の時間等で科学研究の仕方の習得及び研究実践をすることを通して、中高一貫したサイエンスリテラシーの育成を図り、リーダーシップを発揮できるようにする。	2.4	A				A	A		
		2) グローバルコミュニケーションや語学研修を中心とする教科横断的な学習の充実を通して、国際的な視野を広げ、コミュニケーション能力の向上を図る。	2.4	B				A	A		
		3) 「白聖ネイチャースクール」等、中高一貫校の特性を生かして高校と連携を図り、サイエンスリテラシー育成教育の研究に努める。	2.4	A				A	A		
	3 SSH活動の活性化	1) 「SSH科学研究発表会」を実施して、校内外に本校の活動を広めるとともに、SSH通信やHPなどを活用し、広報活動に取り組む。	1	A				A	A		
第1学年	1 中学生としての自覚をもたせ、基本的な生活習慣を確立するとともに、何事にも意欲的に取り組み、責任をもって行動できる態度を育成する。	1) 生徒の出欠状況の把握に努め、家庭との連携を図りながら、楽しく安全な学校生活が送れるようにする。	1.3	A	B	A	・生活ノートの活用によって前日の授業の準備や学習習慣などの定着を図ることができた。 ・行事を通して生徒たちに色々な活躍の場を用意し、生徒が主体的に活動することができた。 ・生活面、学習面で生徒一人ひとりの必要に応じた支援ができるよう、教育相談の充実や教員間、保護者との連携をさらに図ってきたい。				
		2) 進んで清掃活動に取り組む態度を育成し、生徒の快適な生活環境を維持する。	1	B				B			
		3) 生徒一人一人の役割を明確にし、諸活動に責任をもたせるとともに、達成感を味わわせる。	1.3	A				A			
	2 自主的な学習習慣を身に付けさせ、基礎学力の確実な定着を図るとともに、将来への夢をもたせる。	1) 授業に主体的に参加する態度を養い、家庭学習習慣の確立に努める。	2	B				A	A		
		2) オリエンテーション合宿や高校生との交流を通して、幅広い見地から将来の進路について考えさせる。	1	A				A	A		
		3) 生徒理解の深化を図るため、個別面談や教育相談の充実を努める。	2.3	B				B	A		
	3 部活動や学校行事、特別活動において、主体的に活動しようとする態度を養う。	1) 部活動や学校行事、特別活動に進んで取り組む態度を育成する。	3	A				A	A		
		2) 集団に対する帰属意識を高め、一人一人が意欲的に活動できるよう支援する。	1	B				A	A		
	4 自然科学に対する興味関心を高めるとともに、国際性豊かな人材の育成に努める。	1) 自然科学に対する興味関心を高め、探究心や科学的思考力を育成する。	2	B				A	A		
		2) 国際交流事業や高校生との交流を通して、国際社会で活躍できる人材の育成に努める。	1.2	B				B	B		
	第2学年	1 中堅学年としての責任と自覚を持ち、何事にも積極的に取り組むとともに、仲間と協力してやり遂げる態度を育成する。	1) 生徒の心身の健康に留意し、家庭や関係職員との連携を密にしながら、楽しく充実した学校生活が送れるようにする。	1				A	B	A	・個に応じた支援体制を確立させるために、個別面談や教育相談の充実を図り、生徒の心に寄り添った支援に努めることができた。 ・生徒1人1人が主体的に活動できる学級経営に努めることができた。 ・年間を見渡した時に、キャリア教育・進路指導を行う時期に偏りがあった。年間を通して将来への見通しをもたせるための進路学習について内容・実施方法を検討していきたい。
			2) 進んで清掃活動に取り組む態度を育成し、生徒の快適な生活環境を維持する。	1				B			
3) 生徒一人一人が主体的に活動できる場を設定し、諸活動に責任をもたせるとともに、達成感を味わわせる。			1	B	A						
2 自主的・計画的な学習環境づくりの支援を通して、学力の向上を図るとともに、将来の夢や生き方について考えさせる。		1) 「生活ノート」等を用いて学習状況を把握するとともに、個に応じた支援の充実を図る。	3	B	A	A					
		2) 宿泊学習やホームルームセミナー・職場見学等の行事を通して、将来の生き方や適性について考えさせる。	1.2	A	A	A					
		3) 生徒理解の深化を図るため、個別面談や教育相談の充実を努めるとともに、関係職員や関係機関との連携を密にする。	3	B	B	A					
3 部活動や学校行事、特別活動において、先輩の支援をしながら主体的に活動しようとする態度を養う。		1) 部活動や学校行事、特別活動等において、生徒が主体となって活躍する場を設ける。	1	A	A	A					
		2) 下級生に対する思いやりの心をもち、常に全体の状況を見ながら適切に判断し、進んで行動できるよう支援する。	1	B	B	B					
4 自然科学に対する興味関心を高めるとともに、国際性豊かな人材の育成に努める。	1) 科学講演会や「総合的な学習の時間」（サイエンスリテラシー）等を通して、探究心や科学的思考を深める。	1.2	B	A	A						
	2) ブリティッシュヒルズ宿泊学習や「総合的な学習の時間」（グローバルコミュニケーション）等を通して、国際社会で活躍できる人材の育成に努める。	1.2	B	A	A						
第3学年	1 最高学年としての責任と自覚を持ち、何事にも意欲的に取り組むとともに、粘り強くやり抜く態度を育成する。	1) 生徒の心身の健康に留意し、家庭や関係職員との連携を密にしながら、楽しく充実した学校生活が送れるようにする。	1	A	B	A	・「生徒用手帳」を使用したことで、生徒自身の自己管理能力が向上した。 ・職場体験学習や海外語学研修等について、掲示物や発表会をとおして下級生に向けてその成果を伝えることができた。 ・配慮を要する生徒について、高校1年次担当へ十分な引継ぎを行う。また、管理職や養護教諭、生徒指導部、教育相談部等との連携と支援体制の整備に努める。				
		2) 進んで清掃活動に取り組む態度を強化し、生徒の快適な生活環境を維持する。	1	B				A			
		3) 生徒一人一人が主体的に活動できる場を設定し、諸活動に責任をもたせるとともに、達成感を味わわせる。	1	B				A			
	2 自主的・計画的・発展的な学習活動の支援を通して、学力の深化と向上を図るとともに、将来の夢や生き方について具体的に考えさせる。	1) 「生徒用手帳」等を利用して生活・学習状況を把握するとともに、自律の精神の育成に応じた支援の充実を図る。	3	A				A	A		
		2) 職場体験、進路ガイダンス、各種セミナー等の活動を通して、将来の生き方や適性について考えさせる。	1.2	A				A	A		
		3) 生徒理解の深化を図るため、個別面談や教育相談の充実を努めるとともに、関係職員や関係機関との連携を密にする。	3	B				A	A		
	3 部活動や学校行事、特別活動において、リーダーシップを発揮し、主体的に活動しようとする態度を養う。	1) 部活動や学校行事、特別活動等において、生徒が主体となって活躍する場を設ける。	1	A				A	A		
		2) 下級生に対する思いやりの心をもち、常に全体の状況を見ながら適切に判断し、進んで行動できるよう支援する。	1	B				B	B		
4 自然科学に対する興味関心をより一層高めるとともに、国際性豊かな人材の育成に努める。	1) 科学講演会や「総合的な学習の時間」（サイエンスリテラシー）等を通して、探究心や科学的思考を深める。	1.2	A	A	A						
	2) 海外語学研修や「総合的な学習の時間」（グローバルコミュニケーション）等を通して、国際社会で活躍できる人材の育成に努める。	1.2	B	A	A						

※評価基準 A：大変よくできた B：よくできた C：ふつう D：やや不十分 E：不十分